



2022年(令和4年)

6月22日

水曜日

仏滅

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
〒930-0094 電話076-445-3300
©北日本新聞社 2022

とやま経済

資源循環システム構築

エムダイヤ立山に新工場

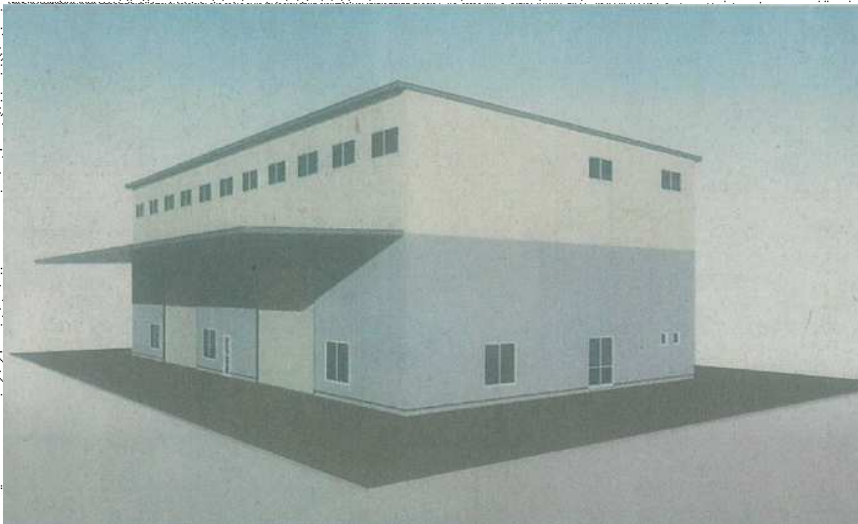
リサイクル機械製造のエムダイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)は、立山町辻に新工場を建設する。最新鋭設備を導入し、取引先のメーカーやリサイクル業者との研究・協業を加速。自社開発したIoT(モノのインターネット)機器の実証を進める。機械製造の枠を越えて資源循環の新たなビジネスモデルを構築し、事業拡大を目指す。

(浜田泰輔)

新工場(延べ490平方メートル)は、北陸自動車道立山インターチェンジ近くに整備する。投資額は設備費を含めて約2億円。

エムダイヤにとって2カ所目の生産拠点。滑川の本社工場が機械設備を製造する「ものづくり」の拠点。なのに対し、新工場はサービスマシンの生産を「ものづくり」の拠点と位置付け、リサイクルの新たな仕組みづくりに重点を置く。同社は光ケーブルや自動

エムダイヤが製造するリサイクル機械



新工場の完成イメージ図

車部品といった異素材混合物を破碎・分離する技術に強みを持つ。社員11人の中小企業でありながら、大手の自動車メーカーや電機メーカーを含む数百家と直接取引している。

幅広い顧客網を生かし、2020年に取引先の電線メーカーとリサイクル業者を仲介して、廃棄されたアルミ線を原料に再生する事業に参入。こうした新ビジネスを拡大させたい考えで、レアメタル(希少金属)の回収・再資源化などを想定している。

海外での事業展開もにらむ。かつて海外での販売を目指して東南アジアで市場調査したが、1台数千万円の製品価格がネックとなり、見送った経緯がある。その後、製品のIoT機能を強化し、遠隔地からの操作やデータ管理、保守が可能となった。機能をさらに高め、海外ではレンタルやリースでの普及を狙う。

森社長は「廃棄物を巡る社会課題をビジネスで解決する、新しい資源循環システムを築いていきたい」と話している。